

普及センターだより

発行日

2024.8.1

第180号

西讃地域の輝く担い手紹介③

～三豊ナス研究会～



秋山 重義 氏

三豊ナスの荷姿

「三豊ナス研究会」は、三豊ナス栽培の技術向上、会員及び栽培面積の拡大に努め、三豊ナスを三豊市のブランド商品として育てることを目的に、平成22年4月に発足しました。

香川県の伝統野菜「三豊ナス」は、みずみずしくジューシーな食感が特徴で、重さは350～600グラム程度のものを収穫するため、一般的な千両ナスの約3倍の大きさとなります。傷がつきやすく、日持ちが短いため、多くが県内に出荷されています。主に露地で栽培されており、6月中旬から10月末頃まで出回ります。

同会では、薄い果皮を傷から守るため、整枝や支柱への誘引を徹底し、周囲に防風ネット等の設置を行っています。その品質と栽培技術が認められ、令和3年度に「さめき讃ベジタブル」の認定生産者となりました。

同会役員の秋山さんは、「実も皮もやわらかく、食べればナスのうまみが口いっぱいに広がります。三豊ナスをより多くの人に知っていただけるよう会員みんなの力をあわせてがんばります」と抱負を語ってくれました。

地域計画づくりを支援しています



地域計画は「地域農業の将来方針」と「目標地図」がセットになったもので、耕作者や農地所有者等による「地域の話合い」の結果を踏まえて、市が今年度中に策定・公告することとされています（農業経営基盤強化法第19条）。

普及センターでは、昨年度に市の農林水産課・土地改良課・農業委員会（事務局）、県農地機構、JA西讃営農センター、土地改良事業団体連合会三豊支所、県土地改良事務所とともに「農地マネジメント推進チーム」を立ち上げ、西讃管内に3カ所のモデル地区を設定し、“より良い”地域計画づくりに向けた支援を行っています。

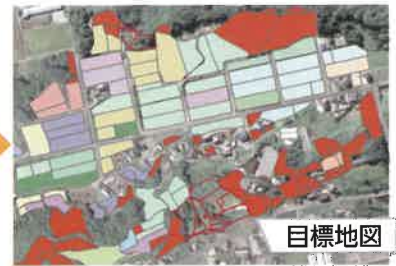
このうち、A地区では、地区の代表者や主要な耕作者と協力して、農地所有者（土地持ち非農家を除く）に今後の農地利用に関する意向アンケートを実施し、その結果を色分けした「分析地図」を使って話合いを行うことで、地区の10年後の農地利用の姿をイメージした「目標地図」を完成させました。また、当地区ではイノシシによる農作物被害が増えていることから、「地域農業の将来方針」には、今後、地域ぐるみで積極的に侵入防止対策に取り組むことを書き込むようにしていけたらと考えています。



分析地図

所有者の意向や貸借の現況を色分け

A地区での話合い



目標地図

利用する農地を耕作者ごとに色分け

※話合いには、耕作者5名（うち入作者1名）、農業委員2名、推進チーム14名が参加

▶ モデル地区以外での「地域の話合い」は今月から管内全域※で開始されることになっており、普及員もアドバイザーとして参加します。今後、出し手が受け手より圧倒的に多くなると見込まれる中、「地域内外からの受け手の確保」や「農地機構を活用した農地の集約化」に向け、各地域での話合いが「次回も参加したい」と思える“未来志向型”の意見交換の場となり、“より良い”地域計画づくりが進められるよう、**担い手の皆様の積極的なご参加とご協力をお願いします。**

農地がバラバラで移動が大変！
農地を集約したい！

荒れた農地から悪影響があると不安！

農地を借りたいけど、誰の農地で
誰が相続しているの？

担い手



これ以上農地を引き受けきれない！

畦畔の草刈りは出し手と受け手の
どちらが担当するの？

そうだ、みんなが集まる「地域の話合い」で聞いてみよう！

※今月から開始される「地域の話合い」は複数の地区をまとめた区域ごとに開催されます。区域の範囲や日時・場所については、市の広報やHP等でご確認ください。

地域計画を策定することで生まれるメリット

地域内の個々の農地を「誰が耕作するか」の見通しがつく！

国や県の支援制度が受けやすくなり、目指す農業の実現に役立つ手段が広がる！

農地の受け手と出し手の信頼関係が構築され、マッチングが進む！

農地が集約されることで、耕作しやすい農業（効率的な営農環境）に変えることができる！

レタスにおける「グリーンな栽培体系」の取組

みどりの食料システム法が施行され、持続可能な食料システム構築のために農業分野においても環境負荷の低減と持続性の確保に向けた取組みが求められています。そこで、管内のレタス産地で現地実証を行った「グリーンな栽培体系」の事例を紹介します。

グリーンな栽培体系：環境にやさしい技術と省力化技術を組み合わせた栽培体系

土壌還元消毒

農薬を使用しない土壌消毒によって土壌病害対策の化学合成農薬を低減します。

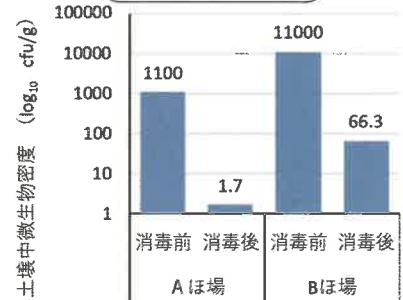
フスマ等の投入



被覆して湛水



菌密度低減効果



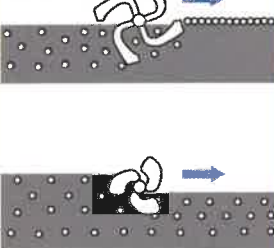
フザリウム オキシスポラム密度

局所施肥による施肥量低減

レタスが吸収しやすい場所へ集中的に施用することによって、生育への影響も無く施肥量を減らすことができます。

慣行施肥

耕耘時に堆肥等と肥料を混和



トラクター

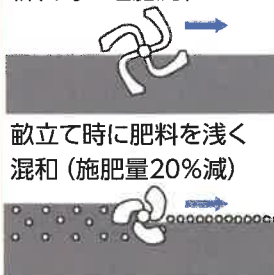
畝立て機

上層の肥料濃度は同等

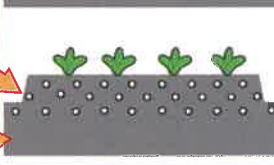
下層の肥料濃度は低い

局所施肥

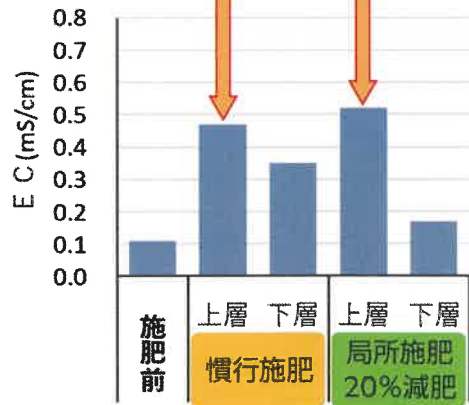
耕耘時は堆肥混和



畝立て時に肥料を浅く混和 (施肥量20%減)

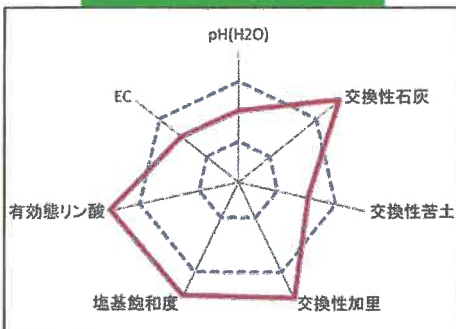


施肥量を減らしても畝内上層の肥料濃度は同等です。



【施肥方法と肥料濃度の関係】

土壌分析



土壌分析を行って過剰に蓄積している成分の施肥を控えます。

生分解性マルチ



土壌中で分解するマルチを使って除去作業を省力化します。

べたがけ



べたがけ資材を使ってトンネル被覆作業を省力化します。

「2024年
憲法記念日知事表彰」
おめでとうございます

農業振興功勞

造酒 安文
(三豊市豊中町)



畜産振興功勞

細川 正信
(三豊市財田町)



※順不同で、敬称は省略させていただいております。

「令和5年度西讃農業改良普及協議会表彰」おめでとうございます

西讃地域農業の発展に貢献された4名の方に西讃農業改良普及協議会の佐伯明浩会長（観音寺市長）から表彰状が授与されました。



受表彰者4名 前列向かって左より

荻田 豊 (観音寺市高屋町)
横内 誠造 (観音寺市豊浜町)
安藤 勝賛 (三豊市山本町)
大西 修 (三豊市豊中町)

表彰された方々の今後ますますのご活躍を
祈念いたします。

※順不同で、敬称は省略させていただいております。

新たな「香川県農業士」をご紹介します

本年度、西讃地区で19名（うち7名が新規）の方が「香川県農業士」、「香川県青年農業士」に認定されました。今後、担い手の育成指導や地域の農業振興のリーダーとして、ご活躍されることを期待しています。

新たに「香川県農業士」に認定された方



久保 健
(観音寺市大野原町)
露地野菜、水稻



高橋 健太
(観音寺市豊浜町)
露地野菜、水稻



白井 悠貴
(三豊市高瀬町)
果樹、露地野菜



細川 貴司
(三豊市高瀬町)
果樹、露地野菜、水稻



矢野 篤
(三豊市豊中町)
果樹、水稻、麦

青年農業士



浅野 隆俊
(三豊市仁尾町)
果樹



田中 壱斉
(観音寺市豊浜町)
露地野菜、水稻

「香川県農業士」に再認定された方

久保 哲也(観音寺市柞田町) 高岡 哲子(観音寺市柞田町)
森川 裕介(観音寺市高屋町) 高橋 昌也(観音寺市新田町)
高井 正雄(観音寺市大野原町) 佐藤 正英(観音寺市豊浜町)
浦 達生(観音寺市豊浜町) 三谷 将支(三豊市高瀬町)
嶋田 誠(三豊市三野町) 横山 順一(三豊市豊中町)
関 遂男(三豊市豊中町) 河田 進(三豊市仁尾町)

【名誉農業士】 近藤圭一郎 (三豊市山本町)

※順不同で、敬称は省略させていただいております。